

令和5年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和5年7月3日
愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	紋枯病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い 7月の気温は平年並か高い	± ±～＋ ±～＋
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	セジロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までの飛来予測回数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	斑点米 カメムシ類	平年並	県全域	畦畔における6月の発生量 ・カスミカメ類は少ない ・その他の斑点米カメムシ類 は平年並からやや多い 予察灯における斑点米カメムシ類 の誘殺数は平年並	－ ±～＋ ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	—

・防除対策

〔いもち病（葉いもち）〕

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

〔イネ紋枯病〕

紋枯病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場で発生を確認したら、病斑が上位葉に伸展する前に、オリブライト1キロ粒剤、バリダシン液剤5、モンカット粒剤などで防除しましょう。

・留意事項

イネ白葉枯病の防除適期は出穂3～4週間前です。詳細は6月23日発表の「イネ白葉枯病情報第1号」を参照してください。

イネ縞葉枯病の発生を認めた場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。詳細は6月16日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

セジロウンカ及びトビイロウンカについては、本県への飛来に適した気象条件が7月2日の時点で2回（6/9、7/1）出現しています。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

斑点米カメムシ類のうち、近年発生が増加しているイネカメムシは、出穂期に籾を吸汁し不稔籾を生じさせることから、発生すると減収につながります。前年に本種の発生がみられたほ場では、出穂初期に効果が現れるように薬剤防除を実施しましょう。詳細は本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」を参照してください。

ニカメイガについて、6月下旬に県内46地点127ほ場で行った巡回調査において、被害株率は0.37%（平年0.10%、前年0.21%）で、過去10年間と比較して2番目に高い状況でした。また、弥富市に設置した予察灯において、6月第5半旬に誘殺数がやや多い状況でした。本種による被害は近年増加傾向にあります。第1世代幼虫の初期被害は、株元の葉鞘が褐変するのが特徴です。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

山間地域でイネドロオイムシによる被害が多いほ場がありました。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	6月の発生量が多い 7月の降水量は平年並か多い	+ ±～+
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並～やや少ない 7月の降水量は平年並か多い	—～± ±～+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は平年並か高い	－ ±～＋
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量はやや少ない 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	－ ＋
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月のモモの被害新梢率はやや高い	± ＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は平年並か高い	± ±～＋
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	6月の発生量は少ない 7月の降水量は平年並か多い	－ ±～＋
	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月の発生量はやや多い	± ＋
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は平年並か高い	－ ±～＋
ブドウ	べと病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	黒とう病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやや少ない	± －
カキ	角斑落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	うどんこ病	少ない	県全域	6月の発生量は少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	コカイガラムシ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	—
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	—

・防除対策

[ウンシュウミカン・そうか病]

ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

ベルコート水和剤、ストロビードライフフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

コロマイト水和剤、ダニコングフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・ナシヒメシクイ]

ディアナWDG、エクシレルSEなどで防除しましょう。

[モモ・ナシヒメシクイ]

ディアナWDG、フェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ブドウ・べと病]

本日発表の「令和5年度発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

[ブドウ・黒とう病]

6月16日発表の「令和5年度発生予察注意報第3号」を参考にしてください。農薬散布にあたっては、収穫前日数に十分注意して散布しましょう。

[カキ・角斑落葉病]

ベンレート水和剤、ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

[カキ・円星落葉病]

ベンレート水和剤、ジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

南知多町に設置している黄色粘着トラップ（カンキツほ場に設置）において、チャノキイロアザミウマ成虫の誘殺数がやや多い状況です。チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第3世代	7/2	7/3	6/27	6/29	7/2	7/3	7/2	7/2	7/6	7/2	第2世代 7/6
(前年)	7/5	7/5	6/30	7/1	7/5	7/6	7/3	7/4	7/8	7/4	(前年) 7/4
前年差	3日早	2日早	3日早	2日早	3日早	3日早	1日早	2日早	2日早	2日早	前年差 2日遅
第4世代	7/21	7/23	7/16	7/17	7/21	7/22	7/21	7/21	7/25	7/21	第3世代 7/29

各地のアメダス平均気温から予測。7月2日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

モモせん孔細菌病は風雨により感染が広がります。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。

クビアカツヤカミキリ成虫の活動が盛んな時期になりました。本虫については、令和

3年3月4日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号（モモ、ウメ）」を参照してください。果樹園（特にモモ）で発生を確認しましたら、農業総合試験場病害虫防除室（0561-62-0085）もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。

野菜

・留意事項

イチゴ炭疽病の育苗ほ場での発生が多くなる時期です。農薬の予防散布に努めましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

シロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	やや多い	平坦部	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
	白さび病	やや多い	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か多い	± ±～＋
	アブラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は平年並か高い	± ±～＋
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は平年並か高い	± ±～＋
	アザミウマ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	－
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い	＋

・防除対策

[キク（露地）・白さび病]

本日発表の「キク白さび病情報第1号」を参考にしてください。

[キク（露地）・オオタバコガ]

フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意し、発生を確認したらディアナSCやヨーバルフロアブルなどで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台6月29日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：20% 平年並：40% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%